

浅川扇状地遺跡群

徳間榎田遺跡

——（仮称）榎田団地造成事業にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

2001・3

長野市教育委員会

序

社会生活の変化とともに「ものの豊かさ」から「心の豊かさ」がもためられて久しい今日、文化財は現代人の心の糧として欠くことのできない必須条件の1つであり、国民共有の財産であることは言うまでもありません。多くの開発事業が市民生活の充実、公共の福祉という目的を達成するため、民間・公共を問わず実施されているところですが、その陰で、埋蔵文化財という地中に埋もれている貴重な歴史の足跡が失われてゆくことに対し、私達はその保護・保存と活用とと言う点において大きな責務を負っているとも言えるでしょう。

このたび、宅地造成事業にともない発掘調査を実施いたしました。非常に狭い範囲ながら貴重な遺構や遺物が発見されています。

本書はその成果を要約し、長野市の埋蔵文化財第99集『浅川扇状地遺跡群徳間榎田遺跡』として報告するものです。この報告書が、文化財に対する一層のご理解と、地域の歴史の解明、地域文化向上のための一助としてご活用いただければ、この上ない喜びです。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力ならびに多大のご尽力をいただきました、有限会社若宮商会、野村建設株式会社、調査に参加いただいた地元の皆さん、そして報告書刊行にいたるまでご指導、ご援助を賜った各位に、厚く御礼申し上げます。

平成13年3月

長野市教育委員会

教育長 久保 健

例 言

- 1 本書は長野市教育委員会埋蔵文化財センターが実施した（仮称）榎田団地造成事業に伴う緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査事業は、委託者 有限会社若宮商会 代表取締役 田中悦夫と、受託者 長野市長 塚田佐との埋蔵文化財発掘調査委託契約に基づき、長野市教育委員会（長野市埋蔵文化財センター担当）が実施した。
- 3 調査地籍は、長野市大字徳間字榎田502-1である。
- 4 報告書名を『浅川扇状地遺跡群 徳間榎田遺跡』とした。遺跡の略号を「A T E D」とした。
- 5 本書の作成は小林が担当し、調査員が分担して整理作業を行いこれを補助した。
- 6 調査で得た諸資料は、長野市埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

- 1 本書では以下の遺構記号を使用している。S B（住居跡）・S D（溝跡）・S K（土坑）・S X（性格不明遺構）・S P（小穴）である。なお遺構実測図の表示縮尺は土器出土状態を除き1/80である。
- 2 遺物実測図のうち土師器等土器類の断面は白抜き、また土器のうち黒色処理されているものをトーン処理で表示してある。実測図の表示縮尺は、土器・陶器類が1/4である。
- 3 遺跡周辺の環境等は紙数の都合上割愛した。詳細については当教育委員会既刊の報告書、長野市の埋蔵文化財第65集『浅川扇状地遺跡群』や、長野市の埋蔵文化財第69集『浅川扇状地遺跡群 徳間本堂原遺跡』などを参照されたい。
- 4 国家座標基準点の設定、コーディックシステムによる遺構測量を写真測図研究所に委託した。
- 5 地図等の方位は真北、また実測図等に掲載した方位はすべて座標北を表している。なお磁北は真北より西へ約6° 40′の偏差がある。

目 次

序	
例言 凡例	
目 次	
I 調査経過	1
1 調査にいたる経過	1
2 調査の体制	2
II 調査成果	4
1 遺構と遺物	4
2 調査総括	5
報告書抄録	
奥 付	

挿 図 目 次

図 1	調査地位置図
図 2	調査区位置図
図 3	遺構分布図
図 4	S B 1 実測図
図 5	S B 1 土器出土状況実測図
図 6	S B 1 出土土器実測図
図 7	S D 1 ・ S D 2 ・ S K 1 ・ S K 2 ・ S K 3 ・ S X 1 実測図

写 真 目 次

写真 1	重機表土掘削	写真 7	S D 2
写真 2	発掘作業風景	写真 8	S K 1
写真 3	S B 1	写真 9	S K 2
写真 4	S B 1 土器出土状況	写真 10	S K 3
写真 5	調査区全景	写真 11	S X 1
写真 6	S D 1	写真 12~16	S B 1 出土土器

I 調査経過

1 調査にいたる経過

長野市徳間地区は近年、開発事業が進んでいる。この地区において宅地造成事業が有限会社若宮商会によって計画された。

平成11年11月12日付で当該地の宅地造成計画の開発行為に関する事前協議申出書が提出された。事業予定地は周知の埋蔵文化財「浅川扇状地遺跡群徳間榎田遺跡」の範囲内に位置するために、長野市教育委員会は開発事業者である有限会社若宮商会の委託を受け、事前に埋蔵文化財の有無を確認するために、確認調査を実施した。

確認調査は平成12年1月14日に実施した。調査は宅地造成予定地内の任意の地点1箇所に試掘坑を設定し、遺物包含層の存在を確認した。

この結果により、(仮称)榎田団地造成事業の着手に際しては掘削等の工程により埋蔵文化財に破壊の及ぶ可能性の高い道路建設部分200㎡について、記録保存を目的とする発掘調査の必要性が確認されるに至った。

本調査は平成12年2月14日より実施し、平成12年2月29日に現場におけるすべての調査を終了した。実質調査日数は8日間である。



写真1 重機表土掘削



写真2 発掘作業風景

調査日誌抄録

- 平成12年2月14日 重機表土掘削 プレハブ・トイレ搬入
- 平成12年2月17日 壁面精査 排水溝
- 平成12年2月21日 遺構検出 遺構調査 SD1 SK1 SX1
- 平成12年2月22日 遺構調査 SB1 SD1 SD2 SX1
- 平成12年2月23日 遺構調査 SB1 SD2 SK2 SK3 P1~3 全景写真撮影
- 平成12年2月25日 写真撮影 SB1 SD1 SD2 SK1 SK2 SK3 SX1 器材撤収
- 平成12年2月28日 遺構測量
- 平成12年2月29日 測量図結線 作業終了

2 調査の体制

調査は長野市教育委員会（埋蔵文化財センター担当）直轄事業として実施し、組織・事務分担は以下の通りである。

〔平成11年度〕

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	久保 健		
調査機関	長野市埋蔵文化財センター	所長	中島 昌之		
		所長補佐兼調査係長	矢口 忠良（調査担当者）		
庶務係	係長	北村 実寛			
	職員	青木 厚子			
調査係（兼務）文化課係長		青木 和明		専門員	山田美弥子
	主査	千野 浩		専門員	西澤 真弓
	主事	飯島 哲也		専門員	小野由美子
	主事	風間 栄一		専門員	堀内 健次（調査員）
	主事	小林 和子（調査主任）		専門員	藤田 隆之（調査員）
	専門主事	荒木 宏		専門員	宮川 明美
	専門員	中殿 章子		専門員	清水 竜太
発掘作業参加者	小林さと・小林敏江・佐藤君江・佐藤ひで子・成田とよみ・原汪子・宮沢けさよ 宮沢芳美・美谷島昇				
整理作業参加者	倉島敬子・小泉ひろ美・清水さゆり・関崎文子・田中はま江・田中むつ子・塚田容子 冨田景子・西尾千枝・松沢ナオエ・村松正子				

〔平成12年度〕

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	久保 健		
調査機関	長野市埋蔵文化財センター	所長	磯野 久夫		
		所長補佐兼調査係長	矢口 忠良（調査担当者）		
庶務係	係長	北村 実寛			
	職員	青木 厚子		専門員	山田美弥子
調査係（兼務）文化課係長		青木 和明		専門員	西澤 真弓
	主査	千野 浩		専門員	小野由美子
	主査	飯島 哲也		専門員	堀内 健次
	主事	風間 栄一		専門員	藤田 隆之
	主事	小林 和子（調査主任）		専門員	宮川 明美
	専門主事	荒木 宏		専門員	清水 竜太
	専門員	中殿 章子		専門員	北村 広充
整理作業参加者	倉島敬子・小泉ひろ美・清水さゆり・関崎文子・田中はま江・塚田容子・冨田景子 西尾千枝・松沢ナオエ・三好明子				

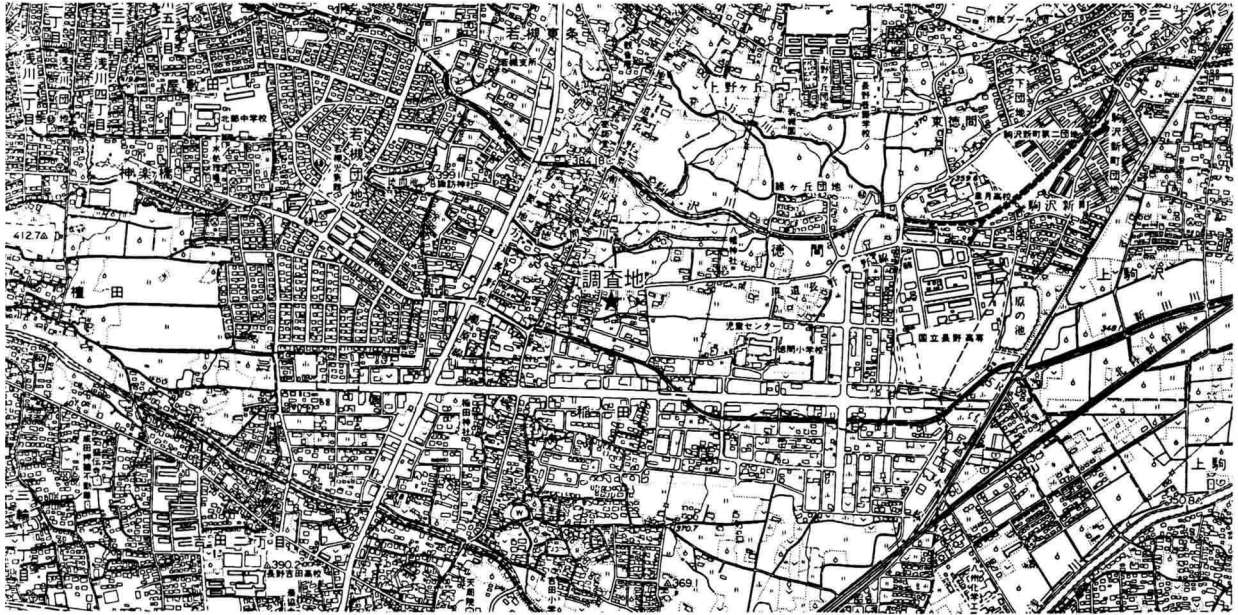


図1 調査地位置図 (1 : 20,000)

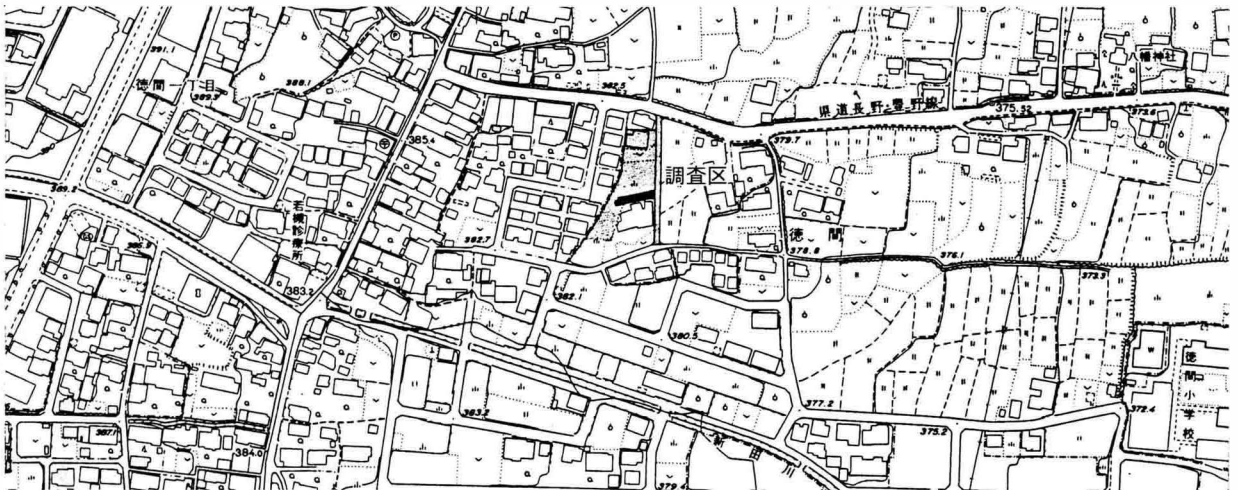


図2 調査区位置図 (1 : 5,000)

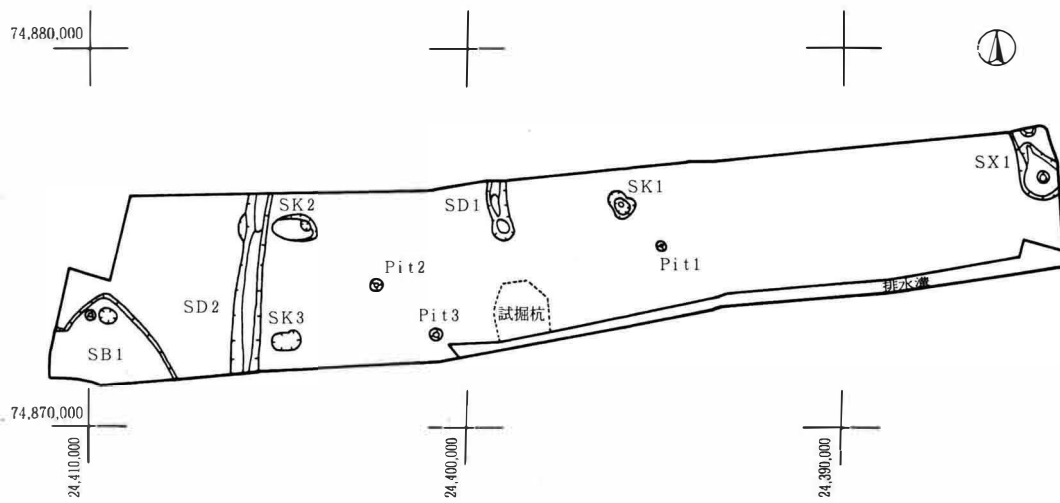


図3 遺構分布図 (1 : 200)

II 調査成果

1 遺構と遺物

SB1 調査区の西端に位置し、3分の1程度しか検出されていないが、一辺約3m程の方形と考えられる。確認面から床面まで深さはおよそ20cmである。カマド部分も半分程度の検出のみであるが、北西壁中央付近に位置すると考えられ、火床面を検出している。

遺物は内黒処理された坏(1)、甕(2~5)等が出土しており、古墳時代後期と考えられる。

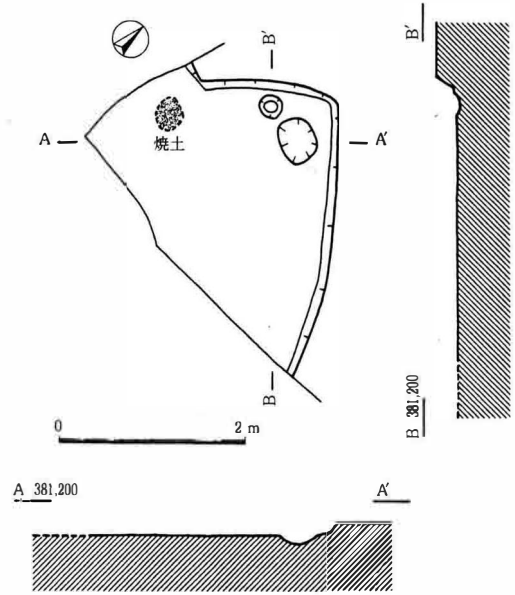


図4 SB1実測図

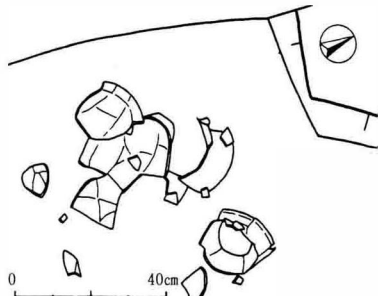


図5 SB1土器出土状況実測図(1:20)



写真3 SB1

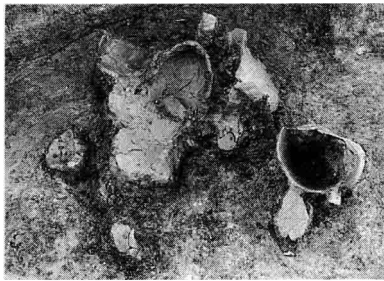


写真4 SB1土器出土状況

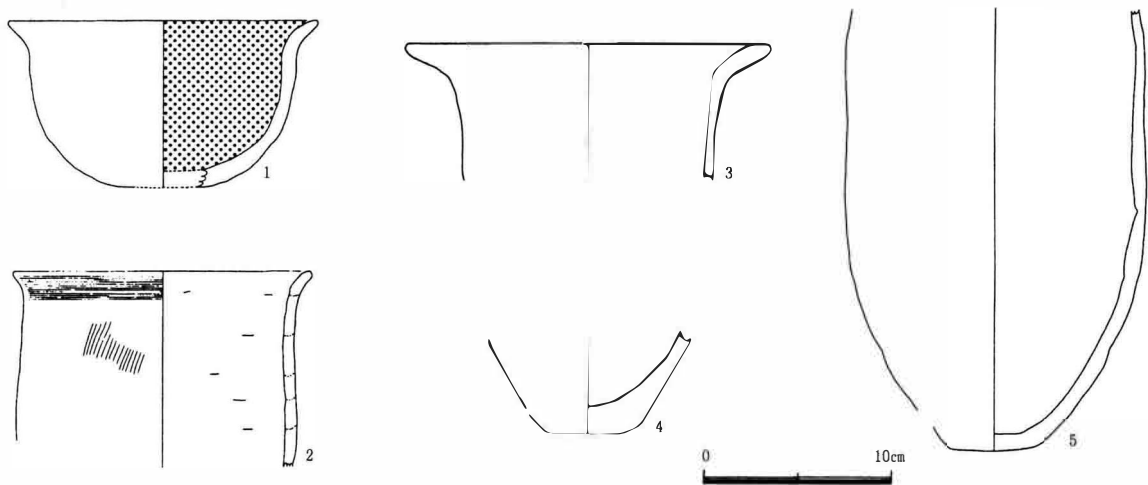


図6 SB1出土土器実測図

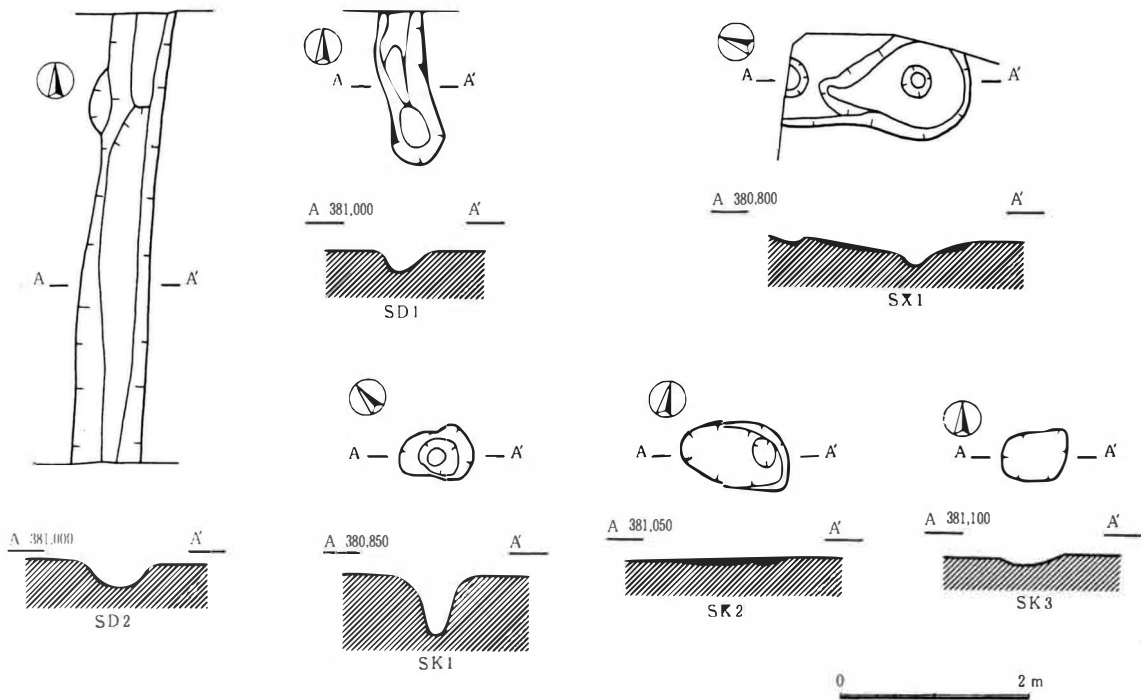


図7 SD1・SD2・SK1・SK2・SK3・SX1実測図

SD1 調査区中央北側に位置し、南北方向に伸びると考えられる。幅約50cm、深さ約25cmを測る。出土遺物は土器小片のみで時期等詳細は不明である。

SD2 ほぼ南北方向に調査区を貫通している。幅約70cm、深さ約30cmを測る。出土遺物は土器小片のみで時期等詳細は不明である。

SK1 長径80cm、短径50cm程の不整な楕円形で中央部が柱穴状になっている。深さは最深部で65cm程である。遺物は僅かに土器小片が出土したのみで、時期等詳細は不明である。

SK2 長径1.2m、短径70cm程の不整な楕円形で深さは5cm程である。出土遺物はなく、時期等詳細は不明である。

SK3 長径65cm、短径50cmの不整な楕円形で深さ10cm程である。出土遺物はなく、時期等詳細は不明である。

SX1 調査区の東端に位置し、極一部の検出であるため全体の様相は不明である。確認面から床面まで深さは20cm程であり、小穴が2か所検出されている。遺物は僅かに土器小片が出土したのみで時期等詳細は不明である。

2 調査総括

調査地は浅川扇状地遺跡群の中央北部、浅川と駒沢川の間位置し、周辺には畑地や水田が広がる。浅川は東南へ向かってゆるやかに傾斜する扇状地形を形成し、これにより遺構検出面も東に傾斜している。

今回の調査では、住居跡1軒、溝跡2条、土坑3基、性格不明遺構1基、ほか小穴3基が検出された。出土遺物は古墳時代後期が主体である。周辺は縄文時代から平安時代にかけての散布地として知られており、極めて限られた範囲ながら古墳時代集落跡の一端がうかがえたことは、この地域の遺跡の様相を知る上で重要な成果であるだろう。

最後に、本遺跡の調査から整理・報告作成にいたるまでご指導、ご協力を賜った関係者各位に心から感謝申し上げます、調査の総括としたい。



写真5 調査区全景



写真6 SD 1

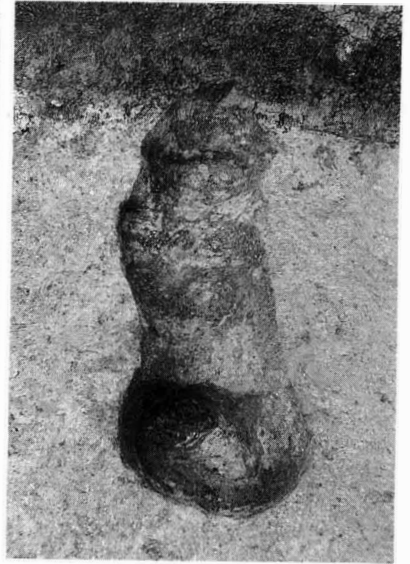


写真7 SD 2



写真8 SK 1



写真9 SK 2

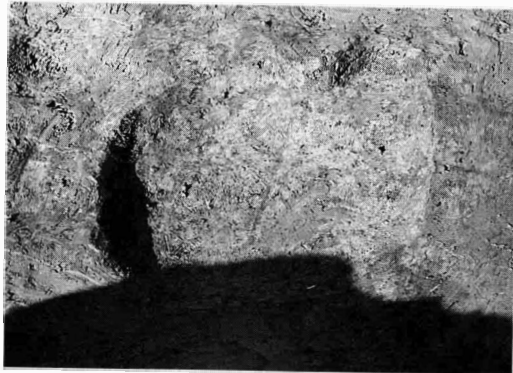


写真10 SK 3



写真11 SX 1

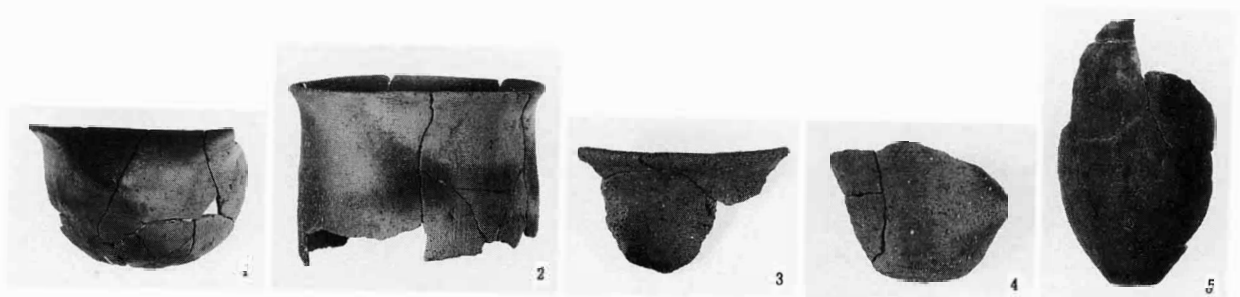


写真12~16 SB 1 出土土器

発掘調査報告書抄録

ふりがな	あさかわせんじょうちいせきぐん とくまえのきだいせき
書名	浅川扇状地遺跡群 徳間榎田遺跡
副書名	(仮称) 榎田団地造成事業にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第99集
編著者名	小林 和子
編集機関	長野市教育委員会 長野市埋蔵文化財センター
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 長野市立博物館内 ☎026-284-0004
発行年月日	2001(平成13)年 3月30日
印刷所	有限会社 長野プリントサービス

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とくまえのきだいせき 徳間榎田遺跡	ながのけんながのしおおあざとくま 長野県長野市大字徳間 あざえのきだ 字榎田502-1	20201	A-020	36° 40' 28"	138° 13' 37"	20000214 ~ 20000229	200㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
徳間榎田遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 1軒 溝跡 2条 土坑 3基 小穴 3基 性格不明遺構 1基	土師器	

長野市の埋蔵文化財第99集

浅川扇状地遺跡群

徳間榎田遺跡

平成13年3月23日 印刷
平成13年3月30日 発行

編集 長野市教育委員会
発行 長野市埋蔵文化財センター
印刷 (有)長野プリントサービス